2017年度　学習院大学東洋文化研究所　東洋文化講座

東アジア諸言語の歴史と伝播

① 第93回｜10月27日(金) 18:00〜20:00

満洲旗人の言語生活
—清代の満洲語学習書から—

■講　師：竹越　孝（神戸市外国語大学外国語学部教授）
■場　所：学習院大学北1号館308

清が北京を国都と定めて以降、北京城内に住むことを許された満洲八旗の人々は、急速に満洲語を忘れていき、中国語を通じて自らの母語を学ぶという状況が生まれました。その教材群から、彼らの言語生活がどのようなものであったかを探ります。

② 第94回｜11月10日(金) 18:30〜20:30

古代・前期中世朝鮮語の諸相

■講　師：伊藤　英人
（東京大学他非常勤講師・元東京外国語大学大学院准教授）
■場　所：学習院大学北1号館308

漢四郡以来漢字漢文を受容して来た朝鮮半島では、新羅による統一と全半島の新羅語(韓語)化の中で、漢字を自言語仕様にカスタマイズして、自言語の読み書きを試みました。そうした資料から知り得る古代(新羅)、前期中世(高麗)時代の朝鮮語の諸相を日本語と対照しつつ概観します。

③ 第95回｜11月21日(火) 18:00〜20:00

高句麗・百済・伽耶の建国神話と日本

■講　師：瀬間　正之(上智大学文学部教授)
■場　所：学習院大学北1号館308

百済建国神話にも継承され、『続日本紀』にも記載される高句麗の朱蒙神話、『古事記』『日本書紀』の天孫降臨神話との類似が指摘される伽耶の建国神話について、古代日本へどのように伝承されたのかを考察します。

入場無料・事前申し込み不要

監　修：杉田　善弘（東洋文化研究所長）
司　会：海老根　量介（東洋文化研究所助教）
植田喜兵成智（東洋文化研究所助教）

学習院大学東洋文化研究所

学習院大学東洋文化研究所では、これまでアジアの言語に対する研究も行ってきましたが、近年、朝鮮語学者の小倉進平博士関係資料が寄贈され、朝鮮をはじめとした東アジアの言語研究に寄与する資料が所蔵されることになりました。そこで今年度は、中国語、満洲語、朝鮮語、日本語の歴史および各言語とそれによる物語の伝播・影響を主なテーマとして連続講演を行います。

【講師プロフィール】

竹越　孝

1997年、東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程中退後、鹿児島大学、愛知県立大学等を経て、現在神戸市外国語大学教授。主要な論著に『象院題語研究』(学古房、2011年)、『満漢字清文啓蒙：校本と索引』(好文出版、2016年)等がある。

伊藤　英人

1992年ソウル大学校人文大学院国語国文学科博士課程単位取得退学後、1993年東京外国語大学外国語学部助手、同大大学院准教授を経て2015年3月同退職。現在、青山学院大学、東京大学、明治大学、早稲田大学非常勤講師。文化講座のテーマに関する論文に「古代・前期中世朝鮮語における名詞化」(『東京外国語大学論集』85、2012年)、「朝鮮半島における言語接触」(『語学研究所論集』18、2013年)、「他地域における「訓読」朝鮮半島」(中村春作編『訓読から見なおす東アジア』東大出版、2014年)、「『蛙蛇獄案』吏読文の一分析」(『朝鮮語研究』7、2017年)などがある。

瀬間　正之

1986年、上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程満期修了後、ノートルダム清心女子大学を経て、現在上智大学文学部教授。この間韓国では、釜山大學校日本研究所客員研究員(2008年～2009年・2016年)、成均館大學國語國文學科招聘教授(2016年～)等兼任。
著書に、『記紀の文字表現と漢訳仏典』(おうふう、1994年)・『風土記の文字世界』(笠間書院、2011年)・『記紀の表記と文字表現』(おうふう、2015年)等がある。最新の論文は、「高句麗・百済・新羅・倭における漢字文化受容」古代文学と隣接諸学シリーズNo4 犬飼隆編『古代の文字文化』(竹林舎、2017年7月)。

学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1(学習院大学　北1号館4階)
■JR山手線目白駅　徒歩1分
TEL：03-5992-1015　FAX：03-5992-1021
E-mail：ori-off@gakushuin.ac.jp
URL：http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html